

おきなわ



作品名:「希望」(第8回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展 洋画の部 奨励賞)
 作成者:国吉 圭子さん(浦添市)

目次

- | | |
|--|----------------------------|
| ② 特集「THANKS(サンクス)運動スタート」 | ⑩ りゅうちゃん子どもの希望募金 受付中 |
| ④ 社会的孤立ゼロを目指して(南風原町) 他
県社協福祉教育推進研究会のこれまでの取り組み | ⑪ 赤い羽根共同募金 企業団体の寄付・寄贈者芳名 |
| ⑥ 生活支援員研修会(報告)他 | ⑫ 福祉人材研修センターの取り組みについて |
| ⑦ 第20回芸能チャリティー公演(報告)他 | ⑬ 介護支援専門員実務研修受講試験(報告) |
| ⑧ 新年のごあいさつ 他 | ⑪ かりゆし長寿大学校大運動会・平成30年度学生募集 |
| ⑨ 教育支援資金のご案内 | ⑮ 第9回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展 |
| | ⑯ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 |

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を活用しております。

サックス THANKS運動がスタート!!

T=ちいきの **H**=ひとびとが **A**=あかるい **N**=ネットワークを **K**=きずき **S**=ささえあうしゃかい

今回の特集は、平成29年11月17日にスタートしたサックス運動の特徴、経緯、今後の展望などについて紹介する。



サックス運動とは
沖縄県社会福祉協議会（以下「県社協」）では、県内の17の福祉関係団体とともに、「THANKS（サックス）運動」をスタートさせた。11月17日に開催された「サックス運動推進会議」では実施要綱等が承認され、本会の湧川昌秀会長が推進会議の会長となって運動を進めることを決定した。（写真）

県内全ての民生委員・児童

社会的孤立が県内の福祉課題に

文字をとって名付けられたもので、身近な地域での支え合い活動を進めると同時に、さまざまな関係機関が連携を強化して活動を支援する仕組みを市町村や地区圏域、県域において構築し、全県的な運動として展開することをねらいとする。そして、高齢者や障害者、ひとり親世帯など社会的リスクのある方々が、それぞれの居場所や社会とのつながりを持つことで、安心・安全な暮らしを確保するとともに、自らも支え手となって役割が発揮できる社会の実現を追求していくこととしている。

運動の期間は平成34年3月までの約5か年間で、福祉関係者のみならず、企業や一般県民など運動の趣旨に賛同する多くの関係者の参画を得ながら運動を展開することとなっている。

県社協では、平成24年に県内全ての民生委員・児童

社会的孤立の解消・防止に向けた対応策を探る

委員を対象に「民生委員・児童委員活動からみた地域の福祉課題について」の調査を実施した。調査の結果、特に高齢者や障害者、子育て世帯、生活困窮世帯では本人が置かれた複合的な要因と相まって、社会的孤立に陥りやすいリスクを抱えており、支援に携わる関係機関のみならず、地域住民による支え合い活動も含めた包括的な支援体制を構築する必要があることが明らかにになった。

社会的孤立対策モデル事業 必須推進項目

- ① コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置
- ② 福祉推進委員会組織（拠点）の設置
- ③ 地域相談窓口及び相談員の設置
- ④ 地域福祉ネットワーク会議の開催
- ⑤ アウトリーチの仕組みづくり
- ⑥ 市町村段階での支援ネットワーク組織の設置

という）を実施することとした。

運動の本格開始に先立ち、平成27年には糸満市、今帰仁村の2社協を指定してのモデル事業が開始された。また、翌年には西原町、南風原町を加え、現在4社協でモデル事業が行われている。この間、地域住民、自治会、ボランティア、社会福祉施設などの関係団体との連携した支え合いの仕組みづくりを展開がされている。モデル事業の6つの必須推進項目は左記のとおり。

サンクス運動で推進する3つの取り組みを掲げ、下記の事項を目指している

① 住民主体の支え合い活動・住民相互の取り組みの推進

地域における福祉教育の取り組みを通じ、住民自身が地域の生活課題に気づき、課題解決に向けた取り組みに主体的に関われるよう、地域の特性に応じた支え合い・生活支援活動等を推進し、関係機関等との連携による課題解決の仕組みづくりの推進。

② 地域における課題に対して関係機関が連携して対応する取り組みの推進

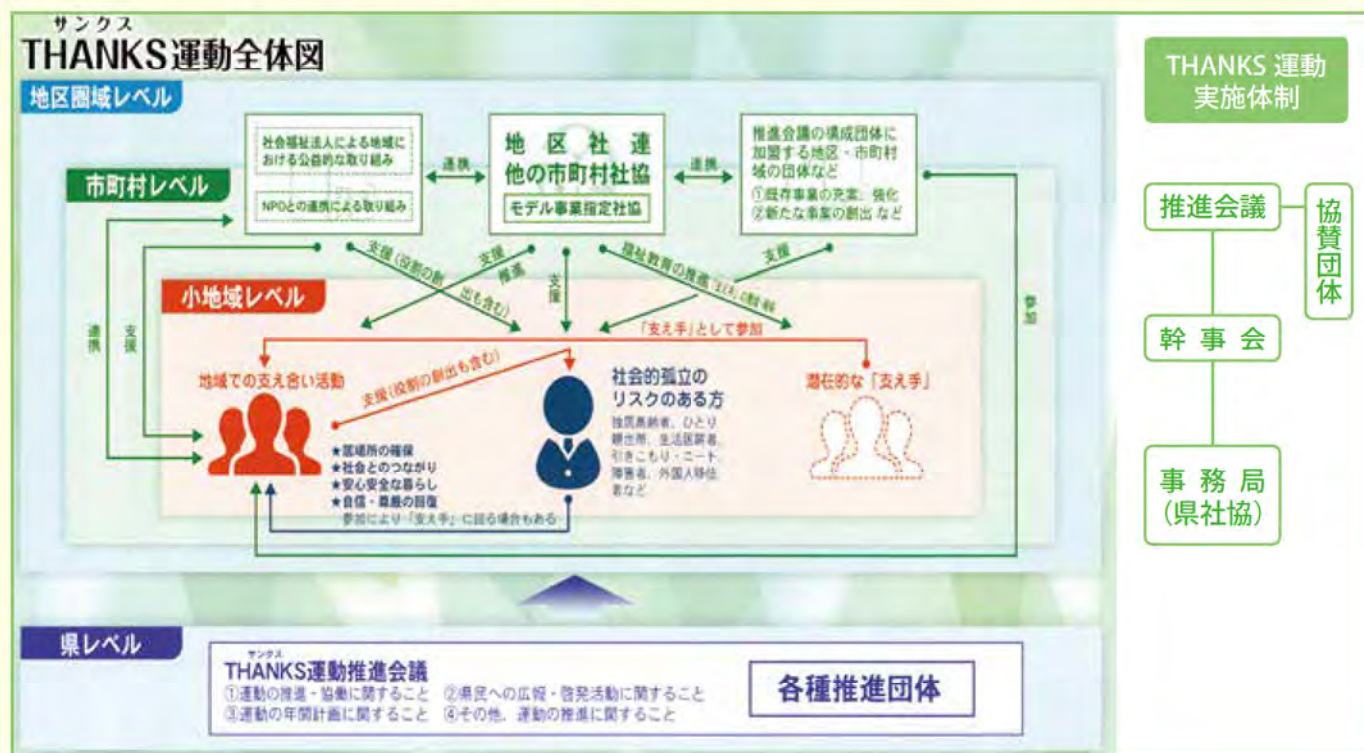
社協、社会福祉法人・福祉関係団体、NPO、企業等と連携し、住民主体の活動を支援するとともに様々な課題の解決に向けた取り組みの推進。

③ コミュニティソーシャルワークを担う人材の配置の推進

市町村社協等に学区・民児協区等を担当区域とするコミュニティソーシャルワークを担う人材を配置し、住民主体の小地域福祉活動の推進を図るとともに、社会的孤立状態にある住民や福祉ニーズの把握、他団体との連携・調整による円滑な支援を行う。

サンクス運動が目指すもの

- 誰もが地域社会の一員として認められ、支え合いながら自分らしく活躍できる社会の実現。
- 地域における見守りネットワークや居場所づくりがゴールではなく、同じ想い(目的)をもった者同士が連携し、「孤立する人を作らない地域づくり」を進める。
- 地域における福祉教育の取り組みを通じ、支え合い活動等の担い手の確保・養成を図るとともに、担い手養成の役割を担う指導者の育成に取り組む。
- 市町村圏域での取り組みを支援する仕組みとして、県圏域において県内の関係機関から構成される推進会議を設置し、運動全体の実施・進捗管理を行う。併せて、運動の趣旨に賛同する個人や団体、民間企業等を協賛団体として位置づけ、広く県民の参画を得た運動の推進・拡大を図る。



今後の運動の 展望について

この県民運動は、各推進団体が主体となって、県民に向けて広報啓発し、運動への参画を促し、地域における支え合い活動の推進と関係機関団体の連携による支援強化を図るものである。これからも関連する施策や制度の動向を踏まえ、県民や関係機関と一体となつて、地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会の実現に向けて運動を取り組んでいきたい。

推進団体一覧(順不同・敬称略)

沖縄県社会福祉協議会、沖縄県共同募金会、沖縄県市町村社会福祉協議会連絡協議会、沖縄県民生委員児童委員協議会、沖縄県社会福祉法人経営者協議会、沖縄県老人福祉施設協議会、沖縄県地域包括・在宅介護支援センター協議会、沖縄県身体障害児者施設協議会、沖縄県心身障害児者施設協議会、沖縄県児童養護協議会、沖縄県保育協議会、沖縄県老人クラブ連合会、沖縄県母子寡婦福祉連合会、沖縄県身体障害者福祉協会、沖縄県手をつなぐ育成会、沖縄県精神保健福祉会連合会、沖縄県労働者福祉基金協会、学識経験者

社会的孤立対策モデル事業

南風原町社協の
取り組み

①寺子屋モデル事業

南風原町社協（前川義美会長）は、県社協から社会的孤立対策モデル事業の指定を受けており、その事業の一環として寺子屋モデル事業を始めた。

Ⅱ目的Ⅱ

身近な地域において学びや遊びを通じた子どもの居場所の確保。

地域の大人と子ども達の絆を深め、地域が一体となつて子どもを育てる。

子どもの孤立を解消し、福祉のまちづくりに寄与する。

この事業は、地域住民が主体となつて実施されており、今回、町新川コミュニティセンターを拠点としてボランティア活動を行っている、新垣奈々さんを訪ねた。

新垣さんは、寺子屋モデル事業を受託する以前から学習支援活動を行っており、町の子ども等貧困対策支援

事業を活用し、平成26年5月に新川区民食堂を開設した。

そして今年8月からは、町社協が取り組む社会的孤立対策モデル事業と併せて活動している。

新垣さんによると「ボランティア活動を始めた頃は、子ども会活動が減っており、育成者の養成等、運営も厳しかった」とのこと。

また地域の繋がりがや見守りの希薄化、子ども達の居場所がなくなつてしまうような状況に直面していたことから、地域での交流を持つ場を作ろうと考え、ハロウィンや新一年生歓迎会等のイベントを実施した。

寺子屋モデル事業を受託してからは、小学校一年生から三年生を中心に放課後の居場所づくりや学習支援を行っており、そのほか、小学生だけではなく地域の中学生が訪れたり高校生が



▲新垣奈々さん

ボランティアの参加もある。

「自分が小さいときは地域に育てられた。言葉は忘れることはあっても、やつてもらったことは忘れないと思う。そういう事を子ども達を感じ取って、地域で主体的に動いてもらえるように、いま私たちが育てる事をしていくのが、大事」と新垣さんは語った。

②移動相談所

町北部の北丘ハイツは、134世帯、329名の住民が生活をしている。この北丘ハイツ地区では、高齢者サロンの開催に併せて、毎月第2木曜日に公民館を拠点に移動相談所を開いている。相談は現在町社協職員2名で対応しており、住民からの相談には年金や介護保険に関する情報を提供することが多い。また、必要に応じて関係機関へ繋ぐ対応等も行っている。

住民からは「町役場や社協から遠い地区のため助かっている」との声があり、町社協職員は「住民の気持ちを後押しできるように心がけている」とのことであった。

沖縄県福祉教育推進研究会の

これまでの取り組み

県社協では、平成26年度から社協ボランティア活動推進研究会（以下、「研究会」という。）を立ち上げ、本県における社協ボランティアセンターの現状と課題等を整理・分析してきた。その中の一つとして、「福祉教育の形骸化」の課題提起があり、平成27年度からは「福祉教育」に焦点をあて、その発展・充実を図るために検討すべき3つの柱について研究活動を進めてきた。

まず、1つ目の柱である「社協組織内の強化」に向けて、福祉教育を組織全体で取り組むための方策について検討を行った。

次に「関係機関との連携強化」については、教育実践における学校や地域の関係機関との連携状況調査結果を踏まえ、社会資源の把握と協働相手の強み・弱みを理解することの必要性を確認した。

最後に、「プログラムの

内容充実」に向けて、福祉教育実践においては対象者（地域住民や児童・生徒）、地域の福祉課題等の実情に即して、社協が積極的に福祉教育プログラムの提案を行う必要があることを議論した。さらに、学校現場についての理解を深めることとし、研究会の中で学校教育に関する法律や学習指導要領のポイント、学校の教育活動の流れについての確認を行った。

そして福祉教育の学びのプロセスを①「事前準備」、②「気づく・考える」、③「行動する」、④「振り返る」、⑤「新たな行動へ」の5つに分類し、それぞれのプロセスで大切にしたい視点等について整理を行った。それぞれの視点を踏まえ、またこれまでの福祉教育実践での課題を克服するためにも、まずは学校との事前調整を丁寧に行うこととし、そのためのツールとして沖縄県

版「福祉教育プログラム作成事前調査シート」(以下「調査シート」という。)を作成した。

その後、学校との事前打ち合わせの際に実際に研究会メンバーが調査シートを活用しながら、社協が福祉教育を推進するねらいや地域の状況を伝えるとともに、学校側の必要な情報のヒヤリングを行った。

調査シートを活用することで、研究会メンバーからは、「学校側と福祉教育の目的を共有することができた意義は大きい」、「学校が取組めること、社協ができることを事前に意見交換することができた」等の前向きな意見が聞かれた。



福祉教育 セミナー の開催

福祉教育推進研究会のこれまでの取り組みや成果を報告するとともに、これからの福祉教育の展開について考えることを目的に、県社協は10月12日、県総合福祉センターにおいて県内の市町村社協職員及び小中学校教職員を対象にボランティア学習・福祉教育セミナーを開催した。

基調説明では、「学校における福祉教育の展開」福祉教育を学校へ」と題し、津嘉山小学校の川口正一校長より学校における福祉教育の取り組み事例について御報告いただいた。また、県教育庁生涯学習振興課の城間勝班長より、次期学習指導要領のポイントを紐解いていただくとともに、コミュニティ・スクールの全国的な動向を踏まえ、社協と学校が連携・協働していくために必要な視点について説明いただいた。

基調説明後は、研究会の

メンバーである嘉手納町社協の金城弘樹氏より、研究会の取り組みについて活動報告が行われた。その後のグループワークでは、実際に研調査シートを用いて、福祉教育プログラム作りを行った。



県社協では、これまでの研究会の取り組みや調査シートを活用して作成した福祉教育プログラムの事例を交えた報告書を今年度中に作成する予定である。そして、報告書や調査シートの普及・啓発及び県内の福祉教育のさらなる強化につなげていく予定である。

生命保険協会沖縄県協会 福祉巡回車、AED、 福祉物品寄贈式

11月22日県総合福祉センターにて、「生命保険協会沖縄県協会福祉巡回車、AED、福祉物品(足踏みシーラー、卓上シーラー、草刈機)寄贈式」が行われた。



▲寄贈式の様子

生命保険協会沖縄県協会(田中仁会長)では、CR活動(企業による地域貢献活動)の一環として毎年、協会加盟の各社員から募金を財源に寄付を行っており、今年で45年目となる。

田中会長からは「地域貢献活動として毎年実施しているが各団体の活動の支援になれば」と挨拶があった。

また福祉巡回車の寄贈を受け、読谷村社会福祉協議会の長浜真佐夫会長から「地域福祉の幸を乗せて走りたい」とお礼を述べた。

障害者支援団体へは、梱包作業に用いる足踏み型シーラーを、障害者支援事業所ゆいまーる、指定就労自立支援事業所希望へ、卓上シーラーをとよみ福祉会ひまわりファクトリーBonへ、清掃作業等で使用する草刈機を、沖縄県社会福祉事業団あけぼの学園の計4団体が寄贈を受け、卓上シーラーの実演も行われ、作業手順も学んだ。

AEDは座間味村社会福祉協議会が寄贈を受け、後日当該社協で寄贈式が行われる。



▲寄贈車両

日常生活自立支援事業 生活支援員研修会

日常生活自立支援事業は、認知症高齢者や知的・精神障害者等判断能力が不十分な方が、地域で自立した生活が送れるよう支援する事業である。

本事業の実施にあつては、福祉サービスの利用手続きや公共料金の支払い等を通して見守り支援を担う生活支援員の存在が欠かせない。(平成29年10月末、151人が登録)

県社協・福祉サービス利用支援センターでは、生活支援員の知識・技術の習得を図ることを目的に、「生活支援員研修会」を宮古地区(9月11日)を皮切りに、八重山地区(12日)・北部地区(22日)・中南部地区(26日)の県内4地区で開催した。

はじめに、県社協・福祉サービス利用支援センターから本県の日常生活自立支援事業の現状について、報告

を行った。

続いて、村吉社会福祉士事務所社会福祉士の村吉康江氏より「生活支援員としての心構え」と題して講話があった。村吉氏からは、利用者とのコミュニケーションの取り方や支援が難しい場合の対応方法等について、事例を交えてわかりやすい解説がなされた。



また、グループワークでは、事例を通して参加者同士で意見交換を行い、利用者の理解・援助の在り方等について学んだ。

参加した生活支援員からは、「傾聴の感情の部分、話を聞くことでの信頼・共感がうまれること」「本人の気持ちを大切にすること」「グループワークで他の生活支援員の意見が聞けて良かった」等、たくさんの感想が寄せられた。

県社協としては、今後も生活支援員の資質向上を図られるよう研修会を開催する等、地域で活躍できる生活支援員の養成・確保に努めていく。

研修会のお知らせ

平成29年度 沖縄県地域生活定着支援事業研修会 ～「高い堀の内と外」罪を犯した高齢・障害者の今を追う!～

罪を犯した高齢・障害者が地域生活への円滑な移行、そして生活を継続させていくための課題等を明らかにし、課題解決に向けて支援関係者の共通認識を深め、今後の支援体制の強化に繋げることを目的に、標記研修会を開催します。

- 開催日時** 平成30年1月23日(火) 13:30～17:00 (13:00受付)
- 場 所** 浦添市社会福祉センター 大研修室(沖縄県浦添市仲間1丁目10番7号)
- 参加対象** 社会福祉施設・グループホーム・市町村社会福祉協議会・地域包括支援センター・相談支援事業所・居宅介護支援事業所・医療関係者・行政職員・民生委員・司法関係者等
- 定 員** 200名(※申込多数の場合、同一団体の参加人数を調整させていただく場合があります。)
- 参加費** 無料
- 研修内容**
 - ◇行政説明「罪を犯した高齢・障害者の社会復帰に係る施策について」
講師：沖縄県子ども生活福祉部 福祉政策課
 - ◇基調報告「地域生活定着支援センター事業の取り組みと課題について」
報告者：沖縄県社会福祉協議会/沖縄県地域生活定着支援センター
 - ◇講演「罪を犯した行き場のない高齢・障害者の実態から見えるもの」
講師：山本 義司 氏(元衆議院議員、作家、知的障害者施設職員)
- 申込方法** 沖縄県社会福祉協議会・地域生活定着支援センター HP より、参加申込書をダウンロードのうえ、FAXにてお申込み下さい。(HP: <http://www.okishakyo.or.jp/teichaku/>) ★締切日：平成30年1月16日(火)
- 問合せ先** 沖縄県社会福祉協議会・地域生活定着支援センター ☎098-884-2800(直通)

20周年記念 芸能チャリティ公演

人が繋ぐ福祉の輪・ウチナンチュの肝ぐくる

社会福祉活動資金造成を目的に「20周年記念芸能チャリティ公演」人が繋ぐ福祉の輪・ウチナンチュの肝ぐくる」を10月15日に豊見城市立中央公民館大ホールにて開催した。

主催は同公演実行委員会と県社協。

20回目の記念となる今回の公演では、24団体・約300人がボランティアで出演し、琉舞や日舞、八重山舞踊、民謡、器楽、フラダンス、エイサーなど多彩な演目で来場した436名を楽しませたほか、20周年を記念して、出演団体・個人



▲20周年記念芸能チャリティ公演の様子

御 礼

『20周年記念芸能チャリティ公演』に御協力いただきました出演団体をはじめ、協賛をいただいた企業や関係者の皆様、そして御来場いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。



▲民謡(子どもの演舞)の様子

に対し、感謝状の贈呈が行われた。
本公演の収益金は、全額社会福祉活動資金として役立てられる。

第36回九州身体障害児者施設研究大会

「いちやりばちよーでー共に生きる社会づくり」ひとりひとりが主人公」との大会テーマのもと、去る10月12日・13日、第36回九州身体障害児者施設研究大会(主催・九州社会福祉協議会連合会、九社連身体障害児者施設協議会、県社会福祉協議会、県身体障害児者施設協議会)が那覇市内にて開催され、九州各県より320名余りの身体障害児者施設の役職員が参加した。



▲大会1日目(基調講演)

まず、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課の山内博之課長より「障害保健施策の動向について」と題し、平成30年度

の障害者総合支援法の見直し及び障害福祉サービス等報酬改定にあたっての論点などについて基調講演をいただいた。



▲グループ討議の様子

次に「社会福祉法人の果たす役割と運営」・「利用者本位のサービスの展開」・「施設で取り組む人材育成・採用・定着」・「利用者の高齢化や重度化に伴う支援」の4つのテーマによる分科会に分かれ、各施設での取り組みや課題を共有し、グループワーク等により熱心な討議が行われた。

大会2日目には、文化人類学者の砂川秀樹氏による「多様な私たちが多様に生きる社会へ」性的少数者(LGBT)の活動から」と題した記念講演が行われた。講演の中で砂川氏は、当事者(性的少数者)の心理状況や社会との関わりの中で生じる生きづらさについて、多様な生き方を受容するあるべき社会を展望しつつ、「みんなそれぞれでいい」と本当に思え、それぞれが考え、分かち合うことにより行動し、社会(制度や環境)を変えていく必要性を説いた。



▲(記念講演)文化人類学者 砂川秀樹氏

2日間の大会を通じて、大会参加者は、「いちやりばちよーでー」の思いを共有し、日ごろの支援を通じて「障害のある人もない人も誰もが安心して暮らせる社会づくり」への決意を新たにした。

新年のごあいさつ

社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会
社会福祉法人沖縄県共同募金会

会長 湧川 昌秀



新年あけましておめでとうござい
ます。

皆様におかれましては、輝かしい
新春を健やかにお迎えのことと、心
からお慶び申し上げます。

さて、今日わが国では、急速に進
む少子高齢化や所得格差の拡大、単
身世帯の増加、地域住民の関係性の
希薄化等を背景に、生活困窮や社会
的孤立などの複合的な福祉課題・生
活課題が大きな社会問題となってお
ります。

こうした現状においては、制度・
施策の拡充はもとより、住民の主体
的な支え合い活動の推進と福祉関係
機関・団体のより一層の連携強化が

求められており、国が提唱する「我
が事・丸ごと」地域共生社会におい
てもその重要性が謳われております。

本県においては、子どもの貧困対
策などを新たに盛り込んだ「沖縄21
世紀ビジョン基本計画(改訂版)」
を基に各施策が展開されており、こ
れらの動向も踏まえながら、行政や
福祉関係機関、ボランティア、住民等
が互いに協働して、地域で支え合う
支援体制の構築に向けて積極的に取
り組んでいくことが必要であります。

沖縄県社会福祉協議会におきまし
ても、「第4次地域福祉活動総合計
画」の着実な推進を図るとともに、
昨年からスタートした、地域の人々
が明るいネットワークを築き支え合
う社会の実現を目指した「THANK
S(サンクス)運動」を県内各種
団体とともに本格的に展開していま
います。

年の初めにあたり、県民の皆様
のますますの御健勝と御多幸を祈念申
し上げますとともに、地域福祉を進
めるうえで貴重な財源であります
「赤い羽根共同募金」をはじめ、社
会福祉に対する尚一層の御理解と御
協力をお願い申し上げます、新年のごあ
いさつといたします。

平成30年元旦

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成29年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火ま
たは津波)に起因する被保険者自身
のケガを補償しますが(天災危険相保
特約適用)、賠償責任の補償につい
ては、天災に起因する場合は対象に
なりません。

保険金額

プラン		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,320万円	1,800万円
	後遺障害保険金	1,320万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術 保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	100,000円 50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償 葬祭費用保険金 (特定感染症)	上記後遺障害、入院、通院の 各補償金額(保険金額)に同じ 300万円(限度額)	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	

年間保険料(1名あたり)

プラン		Aプラン	Bプラン
タイプ	基本タイプ	350円	510円
	天災タイプ(※) 基本タイプ+地震・噴火・津波	500円	710円

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、特定旅行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

(引受事務
保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 五番・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

「ふくしの保険」は、ボランティア活動中のケガや賠償責任を補償する保険です。

生活福祉資金 教育支援資金のご案内



教育支援
資金って？

就学に際し必要な費用を
貸付するものです。
お住いの市町村社会福祉協議会で
ご相談いただけます。



対象世帯：低所得世帯（生活保護世帯を含む）

●世帯の所得が一定の所得以下（生活保護法に基づく生活保護基準額の 1.7 倍以下）
の世帯で、必要な資金について他から融資を受けることができない世帯。

対象学校：高等学校、高等専門学校、専修学校、短期大学、大学

貸付利子：無利子



資金の種類と貸付額、対象経費について

資金種類	貸付限度額	対象経費
教育支援資金	高等学校 （専修学校高等課程含む） 月 52,500 円 以内	毎年必要となる 費用が対象です。 授業料、施設設備費、教材費、 体育会費、実習費、テキスト・ ユニフォーム代、後援会費、 通学交通費 など
	高等専門学校 専修学校専門課程 短期大学 月 90,000 円 以内	
	大 学 月 97,500 円 以内	
就学支度費	500,000 円 以内	入学時のみ必要となる 費用が対象です。 入学金、校友会費、学生保 険料、航空賃・船賃、引越 し費用、敷金・礼金、家財 道具購入費 など

教育支援資金に関するQ&A

Q. 入学前でも申込できますか？

A. 可能です。申込時には合格通知書の添付が必要になります（入学後、在学証明書の提出も必要になります）。

Q. 合格前でも申込できますか？

A. 合格が決定してからのお申込みとなります（合格通知書の添付が必要です）。合格決定後すぐに入学金の納付が必要な場合などはお住いの市町村社会福祉協議会へご相談ください。

Q. 連帯保証人は必要ですか？

A. 学校に通う方を「借受人」、借受人と同一世帯の生計中心者を「連帯借受人」としてお申込みいただいた場合には、原則として連帯保証人は必要といたしません。

お問い合わせ先

お住いの市町村社会福祉協議会が相談・受付の窓口となっています。

相談窓口は混み合っている場合もありますので、事前の電話予約をお勧めします。

相談窓口の電話番号は、お住いの市町村社会福祉協議会のホームページ、または沖縄県社会福祉協議会のホームページにてご確認ください。

インターネットの閲覧ができない場合は、沖縄県社会福祉協議会（民生部／☎098-887-2000）までご連絡ください。相談窓口をご案内いたします。





じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金



—子どもたちの学びと育ちを支えたい—
「りゅうちゃん子どもの希望募金」受付中



「りゅうちゃん子どもの希望募金」とは

りゅうちゃん子どもの希望募金は、琉球新報社が沖縄での子どもの貧困について特集連載と同時に、子どもの学びと育ちを支援する取組みとして始まりました。その後、県共同募金会と連携した募金となり、今年で3年目をむかえます。

集まった募金は、県内で子ども食堂や学習塾など子育て支援を行っている団体の活動へ助成しています。

子どもの貧困の状況
—県調査から—

平成28年の県調査では県内の子どもの相対的貧困率が29・9%との推計結果を公表しました※1。厚生労働省による平成28年の調査※2では、日本の子どもの相対的貧困率は13・9%であることと比較しても、沖縄の子育て世代の生活が厳しいことがわかります。
(※1「沖縄子ども調査」

調査結果概要版から貧困世帯とは、可処分所得が122万円未満の世帯を指す。)(※2「平成28年国民生活基礎調査」で122万円を相対的貧困基準・いわゆる貧困ラインと推計された。)また、県調査では、貧困層世帯のうち、経済的に子どもを習い事や学習塾に通わすことができないと答えたと世帯が、非貧困層世帯と比較して多く、貴重な学びや育ちへの経験の機会が少ないことを示唆しています。さらに、子どもと一緒に地域行事へ参加する機会がありません、子育てについて相談できる知人友人があまりいないと答えた保護者の割合も、貧困層の保護者のほうが多く、子どもだけでなく保護者も、支えやアドバイスを得る機会が少ない可能性があります※3。(※3県調査、小1保護者では差があまり見られないが、小5保護者、中2保護者では有意な差がみられた。)



子どもの学びと育ちを支える活動の支援

りゅうちゃん子どもの希望募金では、これまでに集められた約1千353万円を、県内で子どもの学びや育ちを支援している団体へ助成してきました。

今回集まった募金も、沖縄の子どもの学びや育ち、子育て支援などの活動へ助成する予定です。



▲平成29年度交付式の様子

沖縄の未来を支えていくのは子どもたちです。沖縄で暮らす子どもたちが、安心して育ち、学ぶことのできる環境を整えるために、りゅうちゃん子どもの希望募金へのご協力をお願いします。

銀行名	支店名	種類	口座番号
琉球銀行	石嶺	普通	476739
沖縄銀行	石嶺	普通	1550468
沖縄海邦銀行	汀良	普通	0264480
沖縄県農業協同組合	首里	普通	0047634
コザ信用金庫	安里	普通	0019262
口座名義【各金融機関共通】			
しゃかいふくし ほうじんおきなわけんきょうどう ぼ ぎんかい 社会福祉法人沖縄県共同募金会		かいちょう 会長	わくがわまさひで 湧川昌秀



赤い羽根共同募金 企業団体の寄付・寄贈者芳名

県共募受付 10月1日～11月30日



《寄付先》赤い羽根共同募金
10月1日 沖縄県金融協会 様



《寄付先》赤い羽根共同募金
10月1日 具志堅グループ琉鵬会 様



《寄付先》赤い羽根共同募金
11月7日 株式会社琉球銀行 様



《寄付先》赤い羽根共同募金
11月30日 沖縄県歯科医師会 様



共同募金への寄付は、税制優遇措置の対象です。

法人のご寄付：全額損金算入できます。

個人のご寄付：所得税・住民税控除の対象となります。

※所得税は「所得控除」「税額控除」のいずれかを選択

詳しくはホームページをご覧ください。
「共同募金への税制上の優遇措置」



福祉人材研修センターの取り組みについて①

～福祉の人材の確保・育成に向けて～

県社協・福祉人材研修センターは、福祉人材の確保や福祉事業所への支援、福祉のお仕事に興味がある方への情報提供や、就職に向けたお手伝いなど、福祉職に対する理解・関心を高める活動を行っている。今回は福祉人材研修センターで実施している事業を紹介する。

福祉のお仕事入門教室

福祉の将来を担う小学生・中学生・高校生へ、キャリア教育支援を目的に、福祉施設で従事している職員から直接講話をいただき、福祉の仕事内容や、現在の仕事に就いたきっかけ、仕事の魅力等を伝えている。

・小学校7校
・中学校7校
・高校3校
(11月30日現在)



講話をいただいた職員からは、「改めて自身の仕事を振り返る良いきっかけになった」という感想や、学生からは、「福祉の仕事のイメージが変わった」「福祉の仕事に興味がわいた」など感想が寄せられている。

就職ガイダンス

福祉系養成校の卒業年度の学生を対象に、県内福祉施設における求人状況の説明や情報提供、就職活動のポイント等、講話を通して就職を目指す学生の支援を行っている。

・大学2校
・養成校6校
(11月30日現在)

福祉の職場見学ツアー

福祉の職場への就職を希望している方、就労支援機関の相談員及び進路担当を対象に、実際の福祉施設現場を見学し、そこで働く職員との対話により、働くイメージ作りをし、就職活動の後押しをしている。全5回実施予定で、4回目を終了し、延べ8ヶ所の施設の見学を実施した。



魅力ある職場づくりに ソウェルクラブをご活用ください。

ー福利厚生センター新規会員募集中！ー



- 全国の会員規模（約25万8千人）を活かした多種多様な福利厚生サービスを提供しております。
- 掛金はわずか年1万円（お一人当たり）で各サービスが、ご利用ができます。
- 平成28年4月から介護保険施設・事業に従事する職員も加入対象が拡大しました。

ソウェルクラブサービスの一例

《慶事のお祝い》

- ◆結婚 1万円の商品券贈呈
- ◆出産 1万円の商品券贈呈
- ◆入学 5,000円の商品券贈呈

《健康管理》

- ◆生活習慣病予防検診
1人（最高）4,120円助成
- ◆健康生活用品給付
35品目の中から毎年1品贈呈

《余暇活動》

- ◆クラブ等活動費
1人 1,000円助成

《資格取得》

- ◆資格取得
5,000円相当記念品

※詳しくは、ソウェルクラブホームページまたは都道府県事務局へお問合せください。

・福利厚生センターは、福祉従事者の福利厚生の増進を目的に設立された全国唯一の社会福祉法人です。

加入等及びサービスに関する
お問合せはこちらまで

○社会福祉法人福利厚生センター 0120-292-711

○福利厚生センター沖縄県事務局 098-882-5703(県福祉人材研修センター内)

平成29年度介護支援専門員実務研修受講試験報告

去る10月8日に「第20回介護支援専門員実務研修受講試験」が全国一斉に実施された。県内の結果は次のとおり。

○受験者 1,946 名
○合格者 318 名
○合格率 16.4%

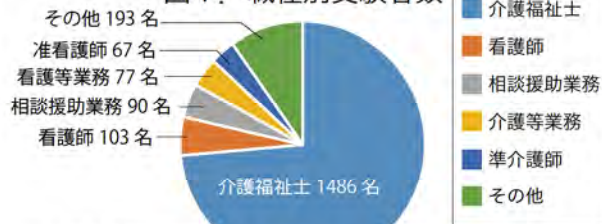


(1,486名)、次いで「看護師」(103名)、「相談援助業務従事者」(90名)、「介護等業務従事者」(77名)の順となっている。

本試験は資格要件となる業務に一定期間従事した者を受験資格としているが、平成27年度に資格要件の見直しが行われ、今年度は見直し前の資格要件で受験ができる最後の年となった。

本試験は、介護支援専門員の資格取得を目指す者を対象に行われるもので、試験合格者は、一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会主催の「介護支援専門員実務研修」修了後に介護支援専門員として登録した後、業務に従事することができ

図1. 職種別受験者数



※1 複数の法定資格を有する受験者は、すべての資格職種において計上しているため、全受験者数と職種別受験者数の計は異なる。

表2：相談援助業務一覧

下記施設の生活相談員

- ・ 特定施設入居者生活介護（地域密着型含む）
- ・ 介護老人福祉施設（地域密着型含む）
- ・ 介護予防特定施設入居者生活介護

下記施設の支援相談員

- ・ 介護老人保健施設

下記事業における相談支援専門員

- ・ 障害者計画相談支援
- ・ 障害児相談支援

下記事業における主任相談支援専門員

- ・ 生活困窮者自立支援事業

平成30年からの受験資格は次のとおり。表1に記載された法定資格に基づく業務または表2に記載のある相談業務に通算5年以上在職し、在職期間中に900日以上に従事日数が必要となる。受験資格の改定により、介護福祉士等の法定資格（表1）に基づく業務以外の介護等業務や、表2以外の相談援助業務が受験資格の対象外となる。

表1：法定資格一覧

医師・歯科医師・薬剤師・保健師・助産師・看護師・准看護師・理学療法士・作業療法士・社会福祉士・介護福祉士・視能訓練士・義肢装具士・歯科衛生士・言語聴覚士・あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・柔道整復師・栄養士（管理栄養士含む）・精神保健福祉士

試験に関するお問合せ先

沖縄県福祉人材研修センター
TEL：098-882-5703
FAX：098-886-8474
E-mail care@okishakyo.or.jp

受験資格に関する詳細は、来年度頒布予定の「介護支援専門員実務研修受講試験受験の手引き」に記載予定であるほか、県社協・福祉人材研修センターで相談を受けている。

介護保険制度下において、利用者とサービスを繋ぐ役割を担う介護支援専門員は、欠かすことのできない専門職である。本会としても、引き続き介護支援専門員の人材確保を目的に、本試験の運営をはじめとする取組を継続して行っていく。

沖縄県かりゆし 長寿大学校

大運動会開催

11月25日(土) 沖縄県総合運動公園(レクリエーションドーム)において、第26回沖縄県かりゆし長寿大学校大運動会が行われた。第27期生190名は、明るく笑顔で元気よくさまざまな競技に全力を尽くしてがんばった。



▲大玉転がし競争

▲選手宣誓

プログラムは、全部で十一种目あり、最初のラジオ体操で体をほぐした後は、全員参加の「スプーンレース」でバトミントンのラケットにのせたテニスボールを丁寧に運んだ。次に「大玉転がし競争」やバスケットドリブル・パン食い競争・

風船割り・二人三脚・サッカードリブルを組み合わせた「五種競技」を行った。また、全員参加の「ほぼ寄せて」では、男女ペアが息を合わせて折り返し地点をまわって盛り上がりを見せた。午前中の最後の「親子三代リレー」では、小さな子供たちもこぞってリレーに参加し家族のチームワークが輝いた。



▲フォークダンス

▲応援合戦

昼食時間帯で応援合戦も行われ午後の盛り上がりをお誘った。その後で豪華なお弁当に家族そろって舌鼓をうつ和やかな風景もあちらこちらでみられた。

午後は、「フォークダンス」から始まり、男女ペアでリズムカルに懐かしの青い山脈、オクラホマミキサーの2曲を楽しく踊りアンコールの声も上がった。続いて「孫と玉入れ」を多くの孫たちと仲良く行った。見せ場となったのは、「男女混成リレー」で、各学科から選ばれた学生が持ち前の力を遺憾なく発揮し最大の盛り上がりを見せた。「曜日対抗大玉運び」では、学生が力を合わせ団結力をみせた。今年もご家族の来場が多く、見学に来たお孫さんからは、祖父母世代が大活躍する運動会をみて「かっこいい!」「おじいちゃん、がんばれ」「おばあちゃん、すごい!」との大きな声援が送られた。運動会の前にみんなで集まり練習をする学科も多くあり、全体的に本気ムードがあった。学生全員がチームワークを結集し、楽しく元気よく活躍した運動会となった。

優勝(火曜)生活環境学科
準優勝は、同点で(木曜)健康福祉学科、(木曜)生活環境学科であった。



▲講義風景 地域文化学科『わらべうた』

- ①県内に居住し、平成30年4月1日以前に満60歳に達している者。
- ②健康で地域活動を行う意欲があり、全期間通じて受講できる者。
- ③本校卒業生は除く。

平成30年度(第28期)
沖縄県
かりゆし長寿大学校

学生募集

■募集内容■
1学年制
平成30年4月から平成31年2月まで。(※各学科の募集人員64名中10名は市町村社協からの地域推薦枠とする)原則として週1回(火曜日または木曜日)午前10時から午後3時まで。

■応募資格■
①県内に居住し、平成30年4月1日以前に満60歳に達している者。
②健康で地域活動を行う意欲があり、全期間通じて受講できる者。
③本校卒業生は除く。

学 科	募集人員		合 計
	火曜日コース	木曜日コース	
地域文化学科	32名	32名	64名
健康福祉学科	32名	32名	64名
生活環境学科	32名	32名	64名
合 計	96名	96名	192名

■受講料■
年間1万5000円
※事務手続き等に係る諸経費、学習に係る教材費、その他課外活動等に係る諸経費については、別途自己負担となります。(29年度クラブ活動費負担額1万7000円/3万円)

■募集期間■
平成30年2月5日(月)から平成30年3月1日(木)午前9時~午後4時(土日祝祭日、2月27日(卒業式のため)を除く)

■問合せ■
沖縄県社会福祉協議会
いきいき長寿センター
098(887)1344

第9回沖縄ねりんピックかりゆし美術展
第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねりんピック富山2018)

美術展 出展作品選考会

高齢者の芸術文化活動を通して社会参加の促進を目的として、「第9回沖縄ねりんピックかりゆし美術展」が平成29年12月2日から8日まで沖縄県立博物館・美術館で開催された。(主催：県、県社協)

会場には、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6

部門の計280点が展示され、開催期間6日間で県内外から延べ2957人の来場者があった。

オープニング・表彰式

初日のオープニングセレモニーでは、主催者代表と



▲テープカット(左から石川哲子さん、西村審査員長、湧川会長、井上県子ども生活福祉部参事、山城サヨさん)

して県子ども生活福祉部井上宏参事、県社会福祉協議会湧川昌秀会長、かりゆし美術展西村貞雄審査員長と、出品者代表石川哲子氏(洋画部門)、山城サヨ氏(洋画部門)の2名を含めたテープカットが行われた。



▲表彰式の様子
(書部門かりゆし賞 豊里敏子さん)

表彰式は同館3階講堂で執り行い、沖縄県知事賞をはじめ全受賞者56名に表彰状と記念品の楯が授与された。

※受賞者は以下の通り。

【沖縄県知事賞】

洋画部門・石川哲子(うるま市)／作品名(鎮守のがじまる)

【沖縄県知事賞】 鎮守のがじまる
作者：石川哲子(うるま市)



【金賞】

日本画部門・深見汎(那覇市)／洋画部門・普天間新(八重瀬町)／彫刻部門・漢那憲次(那覇市)／書部門・與那覇初子(北谷町)／写真部門・崎濱慶子(那覇市) 以上5名

【銀賞】

日本画部門・白金直(沖縄市)・城間悦子(那覇市)／洋画部門・伊禮廣行(那覇市)・高嶺伸(那覇市)／彫刻部門・山田義幸(那覇市)／工芸部門・當銘春子(那覇市)・山城英子(中城村)／書部門・眞玉橋三郎(うるま市)・西大洋子(与那原町)／写真部門・我喜屋功(那覇市)

中山尚子(南城市) 以上11名

【銅賞】

日本画部門・磯ヶ谷明(浦添市)・伊波統代(豊見城市)・宮城範(宜野湾市)／洋画部門・照屋佳永(那覇市)・大城裕(南風原町)・照屋節子(うるま市)／彫刻部門・盛山浩道(豊見城市)／工芸部門・潮平浩(那覇市)・与那嶺勝正(南城市)・大山師一(那覇市)／書部門・川上タケミ(北中城村)・島袋嘉栄(浦添市)・玉城富江(宜野湾市)／写真部門・親富祖勝枝(浦添市)・玉城健次郎(浦添市)・外間加代子(南城市) 以上16名

【奨励賞】

日本画部門・大嶺清徳(うるま市)・栄門昌秀(北中城村)・安慶名信子(うるま市)・佐次田恵子(うるま市)／洋画部門・大城昌光(那覇市)・玉城実光(糸満市)・宮國米男(浦添市)／彫刻部門・照屋正元(浦添市)・比嘉博(南風原町)／工芸部門・慶留間澄子(糸満市)・出納幸人(南城市)・伊佐千代子

(沖縄市)・幸地和子(糸満市)／書部門・渡久地敏子(宜野湾市)・前泊英恂(浦添市)／写真部門・伊藤俊雄(宜野湾市)・比嘉功助(沖縄市) 以上17名

【かりゆし賞】

日本画部門・星山ミツ(那覇市)／洋画部門・山城サヨ(那覇市)／工芸部門・平良ツル子(那覇市)／書部門・豊里敏子(那覇市)／写真部門・田場盛雄(うるま市)・我如古弥助(南城市) 以上6名



今年度受賞した各部門上位2作品は、来年度富山県にて開催される「第31回全国健康福祉祭とやま大会美術展」へ沖縄県代表として出品する予定。

『第44回 芸能の夕べ』を開催

県社協では、「社会福祉活動資金づくり・第44回芸能の夕べ」を左記のとおり開催します。

協賛団体協力のもと、琉球舞踊をはじめ、古典音楽斉唱、日本舞踊、尺八と格調高い芸能の数々を愉しんでいただき、社会福祉活動へご協力ください。皆様の御来場を心よりお待ちしております。

お問い合わせは県社協総務企画部まで。

098-887-2000

【期 日】

◇3月11日（日）

【会 場】

◇沖縄コンベンション
センター劇場棟

【協 賛】

◇沖縄新進芸能家協会

◇都山流尺八楽会沖縄県支部

◇西川流沖縄県支部

◇生田流箏曲沖縄筑紫会

【入場料】

◇1、500円（1枚）

寄付・寄贈者芳名

（10月1日～11月30日）

御寄付いただき、誠にありがとうございました。

●沖縄タイムス社様

●琉球朝日放送様

●沖縄生麺協同組合様

●沖縄電気管工事業協会
青年部会様

●大同火災海上保険株式会社様

●国和会様

●那覇商工会議所様

※本会の寄付については税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは県社協総務企画部まで

社会福祉ライブラリーから

本の紹介

ボクのせいかもしれない… —お母さんがうつ病になったの—

著者…ブルスアルハ
出版社…ゆまに書房



「家族のこころの病気を子どもに伝える絵本」です。お父さん、お母さんがうつ病になったことを、子どもにどのように伝えればいいのか…を取り上げた絵本になっています。主人公のスカイは元気のないお母さんの様子に「ボクのせいかもしれない」と心を痛めています。この絵本は、子どもが読んで「ボクのせいじゃないんだ」と安心できるように、一緒に読む大人の方には「キミのせいじゃないよ」と伝えるために必要なことが書かれています。病気を子どもに伝えるということは、難しいことであり、こういった絵本があるとわかりやすく伝える事ができると思います。このシリーズは他にも、『お母さんどうしちゃったの…—統合失調症になったの—前編』『お母さんは静養中—統合失調症になったの—後編』『ボクの事わすれちゃったの？—お父さんはアルコール依存症—』があります。



▲【写真左から3番目】
沖縄電気管工事業協会青年部会 部会長
當銘直彦 様
【写真左から2番目】
同部会 副部会長 新垣昌彦 様
【写真左から1番目】
同部会 副部会長 仲間幹 様
【写真右から2番目】県社協 会長 湧川昌秀
【写真右から1番目】県社協 常務理事 嘉陽孝治



▲【写真左から2番目】
沖縄タイムス社 執行役員営業局長 比嘉敏幸 様
【写真左から1番目】
琉球朝日放送 営業局長 照屋浩司 様
【写真右から2番目】県社協 会長 湧川昌秀
【写真右から1番目】県社協 常務理事 嘉陽孝治



▲【写真右から2番目】
那覇商工会議所 会頭 石嶺伝一郎 様
【写真右から1番目】
同会議所 副会頭 玉城徹也 様
【写真左から1番目】
同会議所 専務理事 福治嗣夫 様
【写真左から2番目】
県社協 会長 湧川昌秀



▲【写真左から3番目】国和会 副会長 玉城徹也 様
【写真左から2番目】同会 事務局 金城竜治 様
【写真左から1番目】同会 事務局 城間光司 様
【写真右から2番目】県社協 会長 湧川昌秀
【写真右から1番目】県社協 常務理事 嘉陽孝治



▲【写真左から2番目】
大同火災海上保険株式会社
代表取締役副社長 濱田剛 様
【写真左から1番目】
同社 営業推進課主査 知念正 様
【写真右から2番目】県社協 会長 湧川昌秀
【写真右から1番目】県社協 常務理事 嘉陽孝治

編集後記

県民運動として地域でのつながり・支え合い体制の構築を目指したサンスク運動が始まりました。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「作品づくりは今後も続けていきたい」と語っており、ちよっとしたきっかけで始めた絵が、今では国吉さんにとって大事な趣味となっているようであった。

今回の作品は、スクラッチ技法を用いている。「技法名は知らなかった。ただ幼い頃にこの描き方を聞いたことがあったので挑戦してみたいと思った」と話す国吉さん。「希望」という作品名には、闘病中の姪への思いが込められている。

浦添市在住の国吉圭子さん（69歳）は、元々は、「墨と筆だけあれば簡単にできそうに続けられそう」という理由で水墨画サークルに通い始めた。そこから色々な絵画作品づくりを始めたという。

表紙の絵



作品名:「希望」
作成者 国吉 圭子 さん